

私たちの町の文化財

■第4話 城山南麓板碑

西区上代周辺には、貴重な板碑が数多く残されています。今回はその中でも城山南麓に所在する板碑について紹介いたします。こちらの板碑は、市営城山墓地の南側、山の傾斜地に佇んでいます。現在は下半分程が地中に埋められています。正面右下には「大永六年」（1526年）と刻まれています。ここで注目されるのは、正面に佇む仏様の上部に飛雲が描かれている点です。仏様の下部が土中で確認できないのは残念ですが、おそらく下にも飛雲が描かれていると推測されます。飛雲は仏様が来迎する姿を表現しています。また、手を観察すると「上品中生」と呼ばれる印を結んでいます。飛雲に乗って来迎する場面や、仏様が結ばれた印の特徴から、中央に描かれているのは阿弥陀如来と推測されます。如来の左右には沢山の法名が書かれていて、およそ40名分が確認できます。さらに正面右下に「逆・・・」と文字が続くことから、逆修供養のために造られた碑であるとみられます。逆修供養とは、生前に自身を供養する習慣を指します。この場合は、碑を建てた40名以上の出資者が、生前に自身を供養したことになります。逆修供養板碑は戦国時代を中心に流行することから、不安の広がる戦乱の世を反映しているのかも知れません。

熊本市文化振興課 藤島 志考氏

生前にあらかじめ自己
の死後の冥福を祈って
板碑（いたひ）に法名を
刻むって、それなりに
お金かかったろうな〜

